

2021年5月7日『朝礼時法話～報告事項』

法話概略【初代苑長の『生きる意味』を味わう】

本日5月7日は、初代苑長・受宣氏の祥月命日で、今年25年目となります。光寿会の経営理念は、受宣氏が残した『「生きる意味」を発見し合える道場にしよう』です。お年寄りの『生きる意味』は勿論の事、職員や自分の家族の生きる意味も大事に考え、尊ぶ心を持った営みを目指す事です。

理念は、その理念を立てた人がたとえ居なくなっても、営みの経糸として代々受け継がれていくべきものであり、次の代の人たちが継承していくものを理念と呼びます。

その理念から派生したものとして、職員心得や事業計画、各部署目標立案等があるわけですが、理念が不変的な経糸になるとすれば、心得や事業計画等はその時どきの課題に即して変化するもので、そこにいる面々で共有したい横糸と呼ばれるものに値します。この経糸と横糸があいまって事業経営というものが成されていくイメージです。

今一度、職員心得5カ条を読み上げてみます。

- ① 自分がされて嫌なことはしません、させません。
- ② 誰がいてもいなくても、裏表のない言葉づかいをします。
- ③ その人の大切なもの・場所、こだわりを最後まで大切にします。
- ④ お年寄りの“想いに寄り添う”事が私たちの仕事です。
- ⑤ 3.11から10年…『心の防災とリスク管理』の意識を高めていきます。

これもまた、お年寄りに対しては勿論の事、職員同士も、そして自分の家族に対しても同じように、相手を尊び、大事にするものとして掲げたものです。自分の普段の表情や言葉掛け、雰囲気はどうだっただろうか？と、立ち還り点検し、その都度修正しながらやっていくために、光寿会の理念や心得は心の鏡としてあるものですので、折に触れて見ていきましょう。

そして、相手を尊ぶ事が、そのまま自分自身を尊ぶ事である事を確認して参りましょう。

追記

- ※ 職員心得テーマ『こちらが笑えば あちらも笑う』
- ※ 各部署目標法人キーワード『知る』

職員についての連絡事項

介護職員1名、5月31日で退社となります。仕事との両立が困難となってきており、今は家の事をしっかりとやっていきたいという意思表示から、退社の申し出がありました。光寿苑の今いるお年寄りや職員を大切に思っている分、辞めることが心苦しいという中での苦渋の決断だったようです。

この一カ月、そのよき印象を持ちながら共に笑顔で過ごせますよう、よろしく願い致します。

【光寿会理事長】